

第6回臨書展 【大賞】

主催 一般社団法人日本書字文化協会
後援 中国大使館文化部
東京都青梅市日本中国友好協会
中国書法学院、国際芸術家連盟
NPO 法人日中文化交流促進会
中国国立南京芸術学院日本校
蘇州・寒山寺、蘇州吳昌碩研究会

東京都・明治大学附属中野高等学校 3年
石原 颯

初めて何週間も頑張りました

このような賞をいただけて大変嬉しく思っています。以前からこちらの大会には出させていただいているものの、毎回参加証だったので驚いております。

今回の結果と前回までの結果の差は、偏に私自身の心の持ちようであったと思います。というのも、私は何に於いても頑張り切れない残念な野郎なので、いつも先生をはじめとする周りの方々にケツを叩いてもらって何とかいままで生きてきました。前回までの臨書展はそうだったのだと思います。何となく出来ればいいな程度に思っていたのだらうと思います。

ですが、高校を卒業する時期と重なった今回では時間的余裕が非常にあり、他にすることがなかったので、「少し頑張ってもバチは当たらんだろう」程度にほんのちょっとだけやる気になりました。そうすると面白いもので時間を延長して練習するようになりました。それを何週間か続けました。その結果としてあるのが今回の作品でした。

偉そうに心の持ちようなどと冒頭で語っているものの、頑張るに至った理由があった訳ではなく、ただ時間があったということです。今回は時間にケツを叩いてもらいました。大抵時間には泣かされるものなので、いつかは誰にケツを叩かれるでも無く頑張れる人間になりたいものです。